

所属業種	官公庁	年齢 (〇代でも可)	30代
質問の目的	構造計算における側方土圧係数( )の適用について確認したい。		
質問箇所	何工法(該当以外削除):【シールド工法】 何頁(何行目・表・図の名称など): 第2編覆工-第2章荷重-第2.7条鉛直土圧及び水平土圧 P44 解説 表2.1 側方土圧係数( )及び地盤反力係数(k)		
質問の内容	「トンネル標準示方書〔シールド工法編〕・同解説」の側方土圧係数 $\lambda$ について、土水一体で非常に軟らかい粘性土の場合( $N < 2$ )は0.75~0.85を適用することとなっていますが、 $\lambda$ を計算により求めることは出来ないか、またその検証方法は無いかを教えてください。		
回答	結論から申し上げます、側方土圧係数を計算により算出することはできません。一般に、側方土圧係数は、主動土圧係数から静止土圧係数の範囲にあると考えられておりますが、覆工に作用する側圧は土質の性状、設計計算法はもちろんのこと、裏込め注入やセグメントリングの組立精度など施工の影響も受けると考えられます。これらのメカニズムにはいまだ不明確なことも多く、一義的に係数を決定することができない実状にあります。発注者と設計者との間で案件ごとに検討と協議を重ね、設計に用いる側方土圧係数を定めているのが実状です。解説表2.1は、このような実状と従来の多くの設計・施工の実績を勘案して側方土圧係数と地盤反力係数の目安を示しているものです。その適用には十分な検討と注意が必要であることを付記します。		